

〔赤嶺奈津江議員 登壇〕

○12番 赤嶺奈津江さん 午前中ですね、まさかこんなに早く順番が回ってくると思わなかったものですから、ちょっと緊張しておりますけれども、今定例議会ラストバッターで質問させていただきます。それでは一括で質問した後に、再質問から一問一答で行きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

質問事項1、医療費助成事業について問う。沖縄県が2022年度、再来年度より、こども医療費助成事業の中学3年生までを対象とすると報道がありました。この報道があったのが私の誕生日の前日で、思わず万歳をしてしまったんですけれども、この拡充によって本町の財政状況にどのような影響があるかお伺いいたします。次に(2)重度心身障害者(児)医療費助成事業、母子及び父子家庭等医療費助成事業については、当初こども医療費と一緒に現物給付を目指す、本町の目標といたしますか、ありましたけれども、その目指す状況が今現在どうなっているかお伺いしたいと思います。

次に大きい問い2番目です。黄金森公園内の電気トラブルについて。(1)黄金森公園は、コロナ禍の中でウォーキングやランニングなどで多くの人に利用されていると考えております。その中で12月4日に停電が発生し、当面夜間の使用ができないと町の広報でも、LINE等でも通知があったんですけれども、その原因が何なのかお伺いしたいと思います。(2)当面の間ということでありましたけれども、修繕はいつまでに行うのかお伺いしたいと思います。

次に3番目です。心のケア・自死対策について問う。(1)沖縄県は、平均寿命が短くなっている原因に自死があると言われております。心のケア、相談窓口はどうなっていますでしょうか。(2)新型コロナでの影響で、鬱などに悩む人も多くなっていると聞いています。本町での対策はどうなっていますでしょうかお伺いします。次に(3)町立学校での子供たちの心の相談について、状況はどうか。臨時休校などで相談は増えていないかお伺いしたいと思います。お願いします。

○議長 玉城 勇君 副町長。

○副町長 国吉真章君 それでは質問事項1点目の医療費助成事業について。(1)についてお答えいたします。今回の通院対象年齢の拡充により、令和元年度ベースで試算すると県からの補助金が約4,400万円増額する見込みがあります。

(2)についてお答えします。沖縄県重度心身障害者医療費助成事業補助金交付要綱、沖縄県母子及び父子家庭等医療費助成事業実施要綱において助成金の申請方法は償還払いとなっており、現物給付は補助対象外となっています。そのため沖縄県に対して現物給付方式を補助対象とするよう沖縄振興拡大会議を通じて要望をしております。

質問事項2点目の黄金森公園の電気トラブルについての(1)についてお答えします。電気保安委託業者に原因の特定を依頼したところ、高压引込ケーブルが引込柱と受電室の間で断線し、停電へ至っているということでもあります。

(2)についてお答えします。業者から修繕の見積書を受領後、予算の補正ということですが、明日の追加提案を予定しております予算に補正をしていますので、早急に対応し

てまいります。工期は2月程度を予定しております。

質問事項3点目の心のケア実施対策について。まず（１）と（２）については関連していますので一括してお答えします。相談内容に寄り添って対応することが心のケアにつながるものと考えます。町では、関連部署間で連携しながら必要な支援につなげるようにしています。新型コロナウイルスの影響による相談にも、同様の体制で取り組んでまいります。以上です。

○議長 玉城 勇君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項3点目の（３）についてお答えします。臨時休校による相談件数の状況につきましては、一部で増えている学校がございます。内容としては、自粛によるストレス、学習の遅れへの不安、家族間の悩みなどがありました。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。それでは再質問を1問目から行きたいと思いますが、私が最初にこのこども医療費の提案を取り上げたのは、平成28年3月に取り上げて、そのときにもう、多分方針もあったと思うんですが、平成29年1月からは医療費助成が始まりました。その中で執行部と一緒に、前町長も一緒になって要請をしようということで議会も担当部局へ要請に行ったときには、あまりつれない返事で、いつになったら県からいい返事がもらえるんだろうととても気に病んだときもあったんですが、ようやく2022年度から現物給付、中学3年生まで対象になるということで大変喜んでおります。その中で財政的な負担もこれまであったんですが、県が4,400万円、令和元年度ベースでいけばそれだけ助成金が出るということなんですけれども、国からのペナルティーは以前、それも前町長のときに国からのペナルティーは甘んじて受けるけれども、県からはというようなこともあったりしたんですが、今回の県の動向の変化も受けて、国への要望とかそういったものはどうなっているか確認したいと思います。

○議長 玉城 勇君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。まず、今回沖縄県のほうが2022年4月から中学生まで拡充、そういうふうに至ったまでの過程において、南風原町が先陣を切って年齢拡充をしていましたこの現物給付に取り組めたのも、奈津江議員がおっしゃっていましたように、ひとえに南風原町議会の皆様のご理解あって、そして後押しがあったものだと思います。感謝申し上げます。ありがとうございます。その当時からの医療費助成、現物給付した場合には国保のほうで調整交付金のペナルティーがあるというふうに申し上げていましたが、このペナルティーの廃止については、ずっと毎年全国知事会から国に対しては廃止するようという要請が今も続いています。この要請が続いて未就学児の分に関してはペナルティーは国のほうも廃止しています。ただ引き続き、小中学生の分に関してはまだ国保のペナルティーは残っている状況です。以上です。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。やはり子供たち、大きくなってからは健康にも安定というか、そんなに心配することもないんですが、小学生、中学生、義務教育の間だけでも国がペナルティーを課すことなく、医療費無料化、窓口無料化ですね、支えていってほしいというところからの質問です。是非ですね、私たちも声を上げていきますので、執行部にも今後とも尽力いただきたいというふうに思います。またこの医療費のものについては、過去になるんですけれども、当初から重度心身障害者（児）と医療費助成制度と母子父子の部分で、是非窓口無料化をやっていききたいということで当初から声を挙げていたんですけれども、今現在の状況がまだ償還払いになっていて、単独でやっている母子父子の部分は単費で対応したりとかあるんですけれども、その中で、やはり子供たちの平等性とかそういったところから行けば、この重度心身障害者（児）医療費助成補助金の事業とひとり親の母子父子の部分は同じようにといいますか、さらに困っている家庭を助けるための制度だと思っていますので、是非現物給付を早急にやっていただきたいと県にもお願いしたいんですけれども、実際、担当として県の感触といいますか、県の対応はどういう状況なのか確認したいと思います。

○議長 玉城 勇君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。奈津江議員おっしゃいますように、我々もこども医療費以外の2つの医療費助成について、議員おっしゃいますように、やはり経済的負担とかそういった部分の軽減にもなりますので、早急に現物給付方式にしたいということ再三、県のほうには申し上げてはおります。現状はまだ県の、この2つの医療費助成についての要綱の改正はまだしていただけていないのですが、毎年沖縄振興拡大会議等の場で要請は続けています。そういった中、母子父子家庭医療費助成の部分については意向調査が今来ております。令和4年4月からこども医療費が年齢拡充するにあたって、この母子父子家庭医療費助成、市町村の意向ということで調査が来ています。ただ、重度心身障害者医療費助成事業については、確認しましたところ、まだ意向調査をする予定はないという返事が来ています。この重度心身障害者の医療費助成については、平成30年の8月にやっと自動償還払いになったという経緯がありまして、まだ自動償還払いになったばかりだというふうな県のほうの考えもあるようですが、我々としては引き続き、自動償還現物給付、これは市町村が選択する部分で、県の要綱としてはどちらでも補助してもらえるような形で要綱を改正してもらいたいということで、要求を続けてまいりたいと思います。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。やはりなかなか、うんと言ってくれないというところだと思いますけれども、先日穀議員からもこの部分に関しては負担軽減で是非やってもらいたいとありましたけれども、穀議員のところは県政与党でもありますの

で、県のほうでも是非取り上げてもらって、力を尽くしていただきたいといふふうに思います。

次に大きい2番に行きたいと思います。この黄金森公園の電気トラブルですが、現状、電線なのか地中なのか、この状況がどういうふうになっているのか詳しく説明をお願いしたいんですが。

○議長 玉城 勇君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 今回の件につきましては、町民の皆様大変不便をかけていることに対しておわび申し上げます。今状況としましては、先ほど答弁からございましたけれども、電力を電線から引き込む引込柱と、そして受電室ですね。実は高圧で引き込んでおりますので、それで陸上競技場のメインスタンド内でキュービクルという変電室があります。電圧を落とす装置がございますけれども、電柱から電圧を落とす装置まで、この間の高圧ケーブルに異常が発生しているということは確かでございます。それでどうしてそういうことが起こっているかということですが、これはまだ実際にこの高圧ケーブルを引き抜いてみるとか、そういうふうにしてみないとはいけませんけれども、高圧ケーブルの場合、室内で配線しているというのと地中で、特に水があるときには寿命が短くなるということがございます。それで今回、ハンドホールといってあちこちにケーブルを地中ですね、配線は地中です。地中で配線するに当たって点検口みたいなものがございまして、そこに水が溜まっているという状況でございまして、ハンドホールに水が溜まるというのはよくあることであるようですけれども、こういう形で水が溜まって、ケーブルが水につかっている状況ということでございますので、そういった時には寿命がとて短くなるというのがあるみたいです。ですから、予測としてはこの水の影響で高圧ケーブルの寿命が短くなっているということで、今は予測しております。それで私どもとしては、これからはこのケーブルの異常ですね、ちょっと異常を掴むのは、電線を通しながら掴むのは大変難しいようでございますけれども、これがチェックできないか、そういう体制もできないか、今後は検討していきたいと思っております。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。地中の中でなかなか確認もしづらいと思いますけれども、運動施設が少ない南風原町においては大事な黄金森ですので、その中で使用できない期間が長引きますと困る部分も大きいので、是非ですね、こういった長期の故障期間とか停電で使えない期間というものが出ないように対策を是非やっていただきたいと思います。

(2) ですが、先ほど工期が2月ということだったんですが、2か月ではなくて2月ということですのでよろしいですか。その確認をしたいと思います。

○議長 玉城 勇君 都市整備課長。

○都市整備課長 宮城良武君 お答えします。先ほどすみません、副町長の答弁で2月と書いてあるんですが、2か月の誤りです。これは最大ということで、2か月ということを認識していますけれども、今部長からも答弁があったように、中に潜ってケーブルを確認して、最長で2か月ということなのでこれが短縮することは可能と考えます。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、トレーニングルームの支障とか、サッカーのキャンプ等も予定されていますし、時期的にどういうふうになるのかという心配もありますので、早急な対応は必要だと思います。その点では、明日補正予算で組まれる、提案されるということですのでほっとしていますけれども、早急に修繕していただいて、町民の方が早い時期に使用できるような環境づくりをしていただきたいと思いますけれども、実際今、使用できない時間帯の対応がどういうふうになっているのか。公園内でするので、こういった対策を取られているのかを確認したいと思います。

○議長 玉城 勇君 教育総務課長。

○教育総務課長 比嘉純子さん お答えいたします。現在、停電に伴って陸上競技場、ランニングとかですね、そういったものは9時から5時まで利用が可能になっております。野球場も同時間です。トレーニング室のほうはコロナの感染症対策ができないということで今閉鎖しております。黄金森公園の入り口、駐車場に入るところ、そこは8時半から17時まで、5時に閉めております。以上になります。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん では、この時間以降には人が入れない状況をつくっているということでしょうか。

○議長 玉城 勇君 教育総務課長。

○教育総務課長 比嘉純子さん 黄金森の陸上競技場の周り、ウォーキングとかを楽しんでいる方がいらっしゃるんですけども、5時になりましたら、今暗くなりますので促しております。もう帰ってくださいということで声をかけて出ていただいております。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。ここ最近は冷たくなっているからあれなんですけど、まだハブが出たりとかということもあるものですから、暗くなった中で歩かれると、事故とかそういったことにもつながりますので、是非安全対策のほうはしっかりしていただきたいというふうに要望して、この質問を終わりたいと思います。

次に３点目、心のケア・自死対策についてですけれども、今回、この自死対策というのは、県でも命の電話相談というか、そういったことで取り上げていますけれども、県外のほうでも自殺が増えている。沖縄県においては元々多い地域ではあると言われています。ここ最近ですね、子供たちも悩んで学校に行きづらいとかですね、そういったこともあってこの質問を取り上げております。実際、新型コロナの影響で失業だったりとか就職への不安だったりとか、高校生の就職率もかなり落ちていると。また専門学校生については試験が２月、３月にあって、その後の就職がどうなるか分からないとかですね、そういったところでも不安を抱えて、相談をどこにしていかが分からないというようなこともあるようなので、実際、町へそういった相談が、コロナを受けて増えているのかどうか確認したいと思います。

○議長 玉城 勇君 国保年金課長。

○国保年金課長 高良星一郎君 赤嶺奈津江議員のご質問にお答えします。就業とか、失業等の相談は社会福祉協議会のふれあい福祉相談室において相談受付をしております、昨年度と比べて今年度はコロナの影響と思われる分で相談件数が増加しております。以上です。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん やはり本町においても、コロナの影響で失業等で心を病まれている方がいっぱいいらっしゃるのかなというふうに思います。是非ですね、そういったところに相談ができる方はまだいいと思うんですね、相談窓口が分かる方は。そういったところではやはり周知については町の役目として大きな役割を担わないといけないというふうに思うんですけれども、相談窓口についての周知方法はどうなっていますでしょうか。

○議長 玉城 勇君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。この自殺予防対策につきましては、町では毎年９月の自殺予防月間においてパンフレット等を作成して全世帯にお配りしておりました。これが近年ちょっと配布ができておりませんが、そういう形で全世帯にパンフレットをお配りしてですね、そのパンフレットの中に県内の相談機関ということで、先ほどおっしゃっていましたが心の、一番認知度が高い相談機関ですね、沖縄いのちの電話をはじめ、11機関、社会福祉協議会と町も含めてそういう相談機関、そういったところがあるということをパンフレットで周知しています。幸いなことに、幸いなことといたしますか、本町にはその相談機関の中で南部保健所、それから沖縄県精神保健センターも町内にありますし、そういった形でどこどこに相談機関があるということを周知しております。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。南風原町では、そういう受け皿的なところが結構あるということで、相談しやすい環境だというふうに私は今聞いて思いました。是非ですね、いろんな環境の中で変化、実際自宅で仕事をされて在宅勤務で、家庭のバランス的なものも崩れて、ちょっとコロナ離婚が言われたりとかですね、いろんな悩みが増えていると聞いているものですから、子供たちも休校期間は家にずっといて苦しいとか、今議会でもありましたが虐待の問題とかですね、いろいろ様々な課題が出てきているのかなと思います。その中で、コロナがはやり始めて妊産婦の方の不安というのがかなり大きくなっているということで、妊娠控え、妊活を控えるというような方も結構いらっしゃると思います。その中で出産を迎えられた方でも立ち会いができなくてとか、様々な相談をしたくてもなかなかできないということで産後鬱になったりということもよく聞くんですけども、この産後のケアについて多分今訪問ができない状況にもあると思いますけれども、そのフォローとか町がどういう対策を取っているか聞きたいと思います。

○議長 玉城 勇君 国保年金課長。

○国保年金課長 高良星一郎君 産後鬱は近年もともと増加傾向にありまして、そういった案件については健康づくり班と医療機関で情報をやり取りしながら対応してまいりました。自粛期間につきましては電話連絡等の取組を行っておりまして、その後、自粛が解除された後には玄関口の訪問であったり、そういった対応を行っております。以上です。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。ホルモンバランスとか寝られない状況とかでとても大変な方もいらっしゃると思いますので、是非フォローをしっかりといただいて、第三者に話すと楽になるということもあるというのを聞いていますので、是非その対策をしっかりとやっていただきたいと思います。（１）（２）が一緒の答弁でしたので、（３）のほうに行きたいと思います。

心のケアで、子供たちのほうも増えている学校もあるということなんですけれども、相談をする際の流れ、どういうふうになっているかお聞きしたいと思います。受付といいですか、申込みをしてすぐできるものなのか、先生の話ししてすぐできるものなのか、どういう流れになっているかお聞きしたいと思います。

○議長 玉城 勇君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。まず、子供たちが相談を希望する際に、例えば養護教諭の先生だったりとか町で配置している心の教室相談員の先生だったり、担任の先生との教育相談の面談のときだったり、あらゆるところで子供たちから相談がございします。その中でスクールカウンセラーにつなぐのか、町の相談員のほうで子供たちと対応するのかというのを決定したり、あとは担任の先生と保護者の方を踏まえて、交えて話をするのかというのを考えたりとか、場合に、場面に応じて対応しております。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。県立の学校のほうですけれども、授業中の時間帯に相談時間を設けられたりするので相談しにくいということがあったんですが、町としてはどういう対応になっていますでしょうか。

○議長 玉城 勇君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 学校のほうに配置されているスクールカウンセラーや心の相談員については授業時間中に相談を受けることもあるんですが、やはり多くの場合が配慮が必要なケースもありますので、学校では放課後だったり、お昼の休憩時間等を活用して相談を受けたりというような工夫をしております。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。やはり周りからの目といたしますか、相談していることを知られたくない子もいますし、いろいろな状況によって対応が変わると思いますので、その子に合わせた相談をやられているという認識で捉えましたので、是非これからも寄り添って子供たちのケアをやっていただきたいと思います。その中で、実際コロナの影響で休校後から相談が増えているということですが、学校側の対応としても体調不良とか発熱があったときには休み扱いにしないで、出席停止扱いみたいな形になると確認しているんですけれども、学校側からのそういったことでの相談とか対応の仕方とか、困っていることとかという、反対に学校側から町への相談とかというのがありますでしょうか。

○議長 玉城 勇君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。やはり今は、ちょっと熱があったりとか体調不良のときにも登校自粛の対象になっておりますので、学校側からの相談としては、普段の体調不良と今は無理に登校はさせないというようなことがありますので、普段の体調不良と切り分けとか、そういうのをどのように見ていったらいいのかというような相談がございました。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 実際、停止扱いといたしますか、自粛の件数については増加傾向にあるのか、そんなに変わらないのか、状況はどうでしょうか。

○議長 玉城 勇君 学校教育課長。



○学校教育課長 宮良泰子さん 答えいたします。出席停止の件数につきましては、やはり今年度はまず保護者の方がコロナウイルス感染への不安とかでお休みになる場合も出席停止扱いですし、9月以降も沖縄県内全体感染が続いておりまして、県のレベルも上がっておりますので、家族にも体調不良の方がいた場合にはお休みだったりとか、濃厚接触者になるとお休みとかがありますので、出席停止の件数については増えております。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。そうすると、欠席が多くなるということは、学業というか、学習面での遅れも出てくると思いますけれども、そのフォローについては今現在どうなっていますでしょうか。

○議長 玉城 勇君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 答えいたします。不安で出席停止することで、今長期的になっているものは多くは見られないです。一日、二日程度ということでそこは学校に出てきてからの対応となります。長期間お休みするようなことがあれば、学校のほうで課題を出したりとか、やはり定期的に連絡を取り合って相談に乗ったりというような対応をしています。

○議長 玉城 勇君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。長期的にはなっていないということでほっとしているんですけれども、ちょっとした体調不良でも、もしかしたらという思い込みで余計にストレスで具合が悪くなる子もいる。そういう思い込みでなる子もいるというふうに聞いていますので、不安を排除していくために、コロナが一番落ち着くのがいいかもしれませんが、当面まだ流行は続きそうですので、是非ですね、このカウンセリングとか相談とか、そういったところには是非力を入れてもらって、少しでも不安材料を取り去ってあげるような対応をしていただきたいと思います。

最後に、この自死対策は子供からお年寄りまで不安になって、最後は自分でというような状況をいかになくしていくかというのが課題だと思いますので、執行部、関係部署ではなくて、全庁挙げてこの対策に取り組んでいただきたいというふうに思いますし、私たちも地域の目として、不安材料を取り去ることができるような対応をやっていききたいと思います。これまで長期にわたってこんなふうになったことがないので、かなり職員の皆さんにも、また医療機関の皆さんにも負担があると思いますけれども、是非健康に留意されて、新年を迎えていただきたいと思います。ありがとうございました。